
一匹女王と弱虫くん

宝月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一匹女王と弱虫くん

【コード】

N0854I

【作者名】

宝月

【あらすじ】

北辰高校に通う伝説女子高生・森崎千愛海と、だめだめいじめられっ子・川村健の恋物語。

第1 出会い

東京のごく田舎に属する笠歩市。かさほ

緑が豊かな田舎。

そこにある高校が建っていた。

きたたつ
北辰高校。

その高校には1人の伝説の女学生がいた。

もりさき ちあみ
森崎千愛海

彼女は入学そうそう三年全員を跪かせた女傑で、入学一週間で全生徒を平伏させたという。

そのため、彼女に逆らおう生徒は1人としていない。

勿論、友達になりたがるものもない。

それ故、千愛海は「一匹女王」と呼ばれたのだ。

そんな「一匹女王」の、物語である。

「も、森崎様、お早うございますっっ！」

「お早うございます、森崎様っっ！」

「・・・おお」

千愛海は面倒くさそうに、目を伏せた。

朝で込み合う廊下は、見事に二つに割かれている。

急いで挨拶をする生徒。

千愛海にとっては見慣れた光景であり、最も苦手な様である。

「もうさ、挨拶しなくて良いから」

「も、申し訳ありませんっ」

「すみませんでしたっっっっ」

「・・・あ」

肩に置こうとしていた手が、触れることが無かった。

逃げていく同級生のため息一つ。

どんなに恐れられようとも、親しくしてくれもしない。

孤独感が襲う。

手を引き戻し、腕を組む。

「・・・はあ・・・、欲しいな、友達」

千愛海は上を向いて、またため息を漏らす。

いつの間にか、伝説が生まれて、人から近づいて貰えなくなっていることに泣ける。

（入学式の際に、ちっこいガキが高3に絡まれてたから、巴投げしただけなのにな・・・）

だが、千愛海は知らない。

その巴投げをされた人が、3年で一番強かったことに。教室に入ろうと、ドアを開けた。

すると衝撃で千愛海は後ろへ倒れた。

「いっ・・・っっ・・・っ・・・何？」

目に涙を浮かべながら腰を摩りながら顔を上げる。

千愛海に向かい合うように馬乗りになる顔が真っ青な男子と息を呑むようなクラスメイトの視線が、映った。

「・・・あ」

千愛海を男子はしばらく凝視する。

そのまま男子はあまりの衝撃だったのか、そのまま千愛海に覆いかぶさるように気絶した。

クラスメイトはそそくさと各々準備をしだす。

千愛海は声を失いながら、気絶した男子を見つめていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0854i/>

一匹女王と弱虫くん

2010年10月14日12時55分発行